

# 健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動 について（平成23年度）

地域連携推進委員会

坂本宏史 佐藤真一 小林一彦  
成田崇矢 大瀧雅世 内田知宏 小林純子

## Collaborative activities of Health Science University with Fujikawaguchiko town in 2011.

SAKAMOTO Hiroshi SATO Shin-ichi KOBAYASHI Kazuhiko  
NARITA Takaya OTAKI Masayo UCHIDA Tomohiro  
KOBAYASHI Junko

### 抄 録

健康科学大学と富士河口湖町との間に地域包括連携協定が結ばれ、2年目を迎えた本年度に地域連携推進委員会が関わった活動を事業別にまとめた。

今年度から、ボランティアセンターに専任の職員を迎え、大学全体のセンターという形が名実ともに整った。また、富士河口湖町の役場やNPO職員を特別講師に迎えて、本学前期講義「地域連携の理論と実際」が開講し、遊休農地活用事業も新たに始まった。

以前から実施されてきた事業は、年を追うごとに設備が充実し、準備・実施も円滑になってきた。

キーワード：地域連携

包括的連携協定

ボランティアセンター

大学の役割

## 1 はじめに

昨年（平成22年3月24日）健康科学大学と河口湖町との間で「包括連携協定」が締結された。大学にある知的財産の地域との共有、大学生の実践的教育の場の拡大が主な目的であった<sup>1)</sup>。

この報告では、本年度（平成23年度）に行われた連携関連事業をまとめ、上述の「包括連携協定」の目的の達成状況などについて考察してみたい。

## 2 ボランティアセンターについて

平成21年度大学内に開設されたボランティアセンターに、センター長（佐藤真一 作業療法学科教授）と専属の職員（小林純子 事務員）を迎え、専用の執務室（B317研究室）も準備され、学内のボランティア活動を集約する体制が整った。

ボランティアセンターは、関連が深い地域連携活動・事業における大学の窓口を兼ね、学内外からの様々な要請を、学内および、必要に応じて学外の関係部署に配信すると同時に、ボランティア活動について学内で啓蒙・広報活動を行い、ボランティアセンター登録という形で、活動できる人材の拡大を図っている。一方で、ボランティア活動の募集記事を紹介する「ボランティアNEWS」を、今年度4月から10月までの間に、六十数回配信している。

## 3 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

町と大学共同で企画する事業で、地域連携事業の大事な柱の一つとなっている。

本年度は、三回目を向かえ、7月9日（土）から7月23日（土）にかけて全4回、富士河口湖町中央公民館に於いて開催された。（表1、写真資料1～4）

今回から、県民コミュニティカレッジ地域ベース講座（パブリックテーマ講座）の共同開催となったこともあり、富士河口湖町外からの参加もあった。

今年度は、3月に起きた東日本大震災と震災からの復興に配慮し、「絆」が講座のキーワードとなった。表1のような日程で実施された。

表1

回	日時	テーマ	講師
1	7/9(土) 13:30～	「家族の絆」	守口恭子（健康科学大学作業療法学科）
2	7/16(土) 13:30～	「親子の絆」	瀧口綾（健康科学大学福祉心理学科）
3	7/16(土) 15:00～	「食の絆」	真野芳彦（健康科学大学「栄養学」非常勤講師）
4	7/23(土) 13:30～	「地域コミュニティの絆」	加藤智也（健康科学大学作業療法学科）



写真資料1～4：地域連携講座

また今年度から、本学で新に開講した「地域連携の理論と実際」の受講生が地域連携講座の運営に関わる試みもなされ、回を重ねるごとに講座の実施が円滑になったと感じられる。

受講者数は、第1回から、第4回まで、それぞれ、37名、47名、50名、48名であった。

アンケートの集計結果は、どの回も高い評価を受けたことを示していた。

「同じテーマで、さらに詳しい話を聞きたい。」という感想や、「同じ町の中にある健康科学大について知る良い機会だから、ぜひ継続して欲しい。」という貴重な意見もあった。

#### 4 地域連携の理論と実際

富士河口湖町と本学の地域連携が準備段階であるうちから、前項の「富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座」と同時に、大学においても、地域行政の専門家の立場から、福祉、健康また行政そのものについての講義を開設できたという提案があった。今年度4月開講の「地域連携の理論と実際」はまさに、この提案を実現させたものである。表2に講義のためのシラバスを示す。

町の政策局に講師の調整を始め、講義の進行に参加・協力を請い、地域行政のそれぞれの部署での課題と取り組みを紹介してもらった。受講生は特に興味をもった課題につ

表2

科目名	必修 選択	区分	担当教員	単位数	履修 年次	開講 学期等
地域連携の理論と実際	選択		坂本宏史 他	2	2・3・4	前期
学習目的	地域連携における諸問題を学ぶことにより、今日的課題を的確に判断できるようになる。					
学習目標	① 富士河口湖町の地域特性や保健・医療・福祉分野等における課題や問題解決のための取り組みや具体的な活動について理解することができる。 ② 学生個々が主体的に考え、各々の立場から意見を明確に表明することにより、専門職としてのコミュニケーション能力を養い、さらに職種間連携についての学びを深めることができる。					
授業概要	保健・医療・福祉分野などを中心として、住民の持つ今日的課題を整理し、富士河口湖町と大学との連携により、適切な住民サービス提供のための課題や問題点を探り、地域に密着した大学のめざすべき姿を模索して行く。					
教科書	特に指定しない 必要時、担当教員の資料配布					
参考書	必要に応じて授業中に参考となる図書、資料を提示					
成績評価方法	全体100%として出席点75%、課題点15%で評価する。					
授業 計 画	第1回	オリエンテーション：「地域連携の理論と実際」の科目のめざすもの 保健・医療・福祉分野の連携教育の必要性				
	第2回	保健医療福祉分野における産学官の取り組み（政策） * 福祉のまちづくり（全体の概要） 富士河口湖町 政策局 職員 の講義				
	第3回	保健・医療・福祉分野における各地域の特色ある取り組みの実際と課題 富士河口湖町における健康・福祉の町づくり（保健医療福祉）の取り組みの現状と課題 I * 高齢者分野 富士河口湖町職員による講義				
	第4回	保健・医療・福祉分野における各地域の特色ある取り組みの実際と課題 富士河口湖町における健康・福祉の町づくり（保健医療福祉）の取り組みの現状と課題 II * 障害者分野 富士河口湖町職員による講義				
	第5回	保健・医療・福祉分野における各地域の特色ある取り組みの実際と課題 富士河口湖町における健康・福祉の町づくり（保健医療福祉）の取り組みの現状と課題 III * こども分野 富士河口湖町職員による講義				
	第6回	保健・医療・福祉分野における各地域の特色ある取り組みの実際と課題 富士河口湖町における健康・福祉の町づくり（保健医療福祉）の取り組みの現状と課題 IV * 観光分野 富士河口湖町職員による講義				
	第7回					
	第8回	富士河口湖町の具体的取り組み				
	第9回	「地域連携講座」への参加：富士河口湖町職員と共に企画、実施、評価の一連の事業に参加				
	第10回	6月から7月の（土）にかけて開催される「地域連携講座」に2回参加				
	第11回	富士河口湖町の地域特性を活かした具体的取り組みの方向 I 問題点や課題を解決するための具体的取り組みの提案 ① 富士河口湖町職員による				
	第12回	富士河口湖町の地域特性を活かした具体的取り組みの方向 II 問題点や課題を解決するための具体的取り組みの提案 ② 富士河口湖町職員による				
	第13回	プレゼンテーションとディスカッション I 担当教員 富士河口湖町 職員 住民 参加				
	第14回	プレゼンテーションとディスカッション II 担当教員 富士河口湖町 職員 住民 参加				
	第15回	まとめ 「連携とは」				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ具体的課題を題材とした授業を展開する。</li> <li>グループは3学科にわたるメンバー構成とする。</li> <li>富士河口湖町には、必要に応じて町の実情等に関する資料を提示してもらう。</li> <li>住民の方々には、学生とともに授業に参加してもらい、ディスカッション等に加わってもらう。</li> <li>授業運営は「健康科学大学地域連携推進委員」が担当する。</li> </ul>					



写真資料5、6：地域連携の理論と実践

いて、グループをつくり、調査・研究を行い、最終的に研究発表会を行った。写真資料5、6で、講義風景を紹介する。

## 5 学生サークル トレーナークラブの連携事業

昨年より、富士河口湖町が関わるスポーツイベントに本学学生サークル・トレーナークラブ（顧問 成田崇矢 講師）が、スポーツトレーナーを志す学生の日頃の練習成果を発揮し、出場者の身体調整を支援するため、特設ブース（図1）の運営を任されている。本年度も、6月19日（日）に「西湖ロードレース」、8月7日（日）に「健やか樹海ウォーキング」に参加した。（写真資料7、8）

昨年度から一緒に活動している富士河口湖町総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士

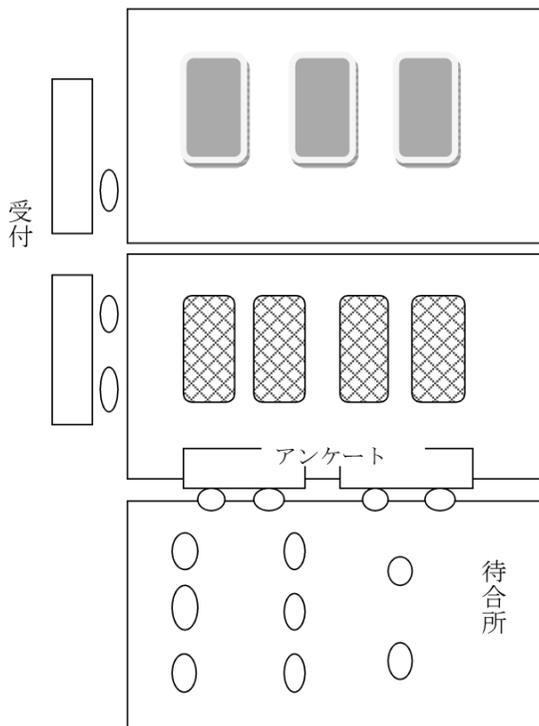


図1

- ・テント×3（2つは大会側から）
- ・ブルーシート×2
- ・ベッド×4、
- ・マット×3か所（最初は7か所最終的に10か所で行った。）
- ・アイシングは用意していたが、使用する人がいなかった。

山」のメンバーと東日本大震災の被災地宮城県岩沼市を訪問し、被災地の見学・ボランティア活動を行った。本学からは学生26名・教員1名が参加した。活動内容は、仮設住宅で生活をしている方々のマッサージ、子供たちとの交流、草むしりであった。(写真資料9、10)



写真資料7～10：トレーナークラブ

## 6 遊休農地活用事業

6月富士河口湖ボランティアネットワーク協議会(後述)において、話題に上がった富士河口湖町内の遊休農地の活用について、「園芸療法」(作業療法の一つ)のための農業体験として作業療法の学生を中心に、町内農家の方々の指導と、NPO法人「だんだん」、富士河口湖町政策局の協力で始まった。(写真資料11～16)

今年度の目標は、秋に収穫される野菜を、大学の文化祭(10月8・9日)や町の誕生祭(10月23日)に出品することであった。写真資料11～16は、事業の様子である。なお、本年度の大学文化祭には作物が間に合わなかったが、誕生祭にはキャベツ、カボチャ、大根の販売にまでこぎつけた。売り上げは来年度の種や、肥料など材料費に当てることとなった。

またこの事業については、7月4日付け山梨日日新聞にも掲載され、来年3月には、町と大学の連携事業として、日本リハビリテーション連携科学学会で報告の予定である。



写真資料11～16：遊休農地活用事業

## 7 富士河口湖ボランティアネットワーク協議会

平成22年度に発足した本協議会（構成：本学ボランティアセンター、富士河口湖町政策局・生涯学習課、社会福祉協議会、富士河口湖高校ボランティアサークル）は、本年度も4月から、月に一度開催されている。

大事な情報交換の場であり、前述の遊休農地活用事業も本協議会が発端であった。

8月には河口湖畔教職員組合も新たに本協議会に加わり、大学と町に、小中学校も加えたより広範囲の連携によって生まれる利点や可能性について情報や意見の交換を続けている。

## 8 考 察

### 1) 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

今回が3回目となり、回を重ねるごとに企画や運営が円滑になった感がある。アンケート結果を参考に、ますます充実させていきたい。

### 2) 地域連携の理論と実際

企画の段階では、受講生が地域に出かけて現場で学習することを計画していたが、実際には大学での講義が中心となった。小グループに分かれて行う課題研究発表のために、自主的に地域へ調査に出かけた学生グループもあったが、今後、多くの受講生が積極的に地域で研究や調査ができる環境を整えて行きたい。

### 3) 学生サークル トレーナークラブの連携事業

2年目に入り、サークル活動の必要性も認められつつある。活動のための備品も充実してきた。今年度は、被災地においても支援活動を行い、対応の幅に可能性が膨らんだ。今後、活動を確実に継続し、発展させることが肝要である。

### 4) 遊休農地活用事業

地域と大学の要望がみごとに合致した事業であると思われる。地域の期待も反響も大きく、今後さらなる発展が期待される。より多くの学生の興味をひいて、参加してもらうこと、事業を拡大していく事が課題である。

## 9 おわりに

富士河口湖町との地域連携講座を始めて3年、地域包括連携協定が結ばれて2年目を迎え、健康科学大学と富士河口湖町との間で、いろいろな方面の事業を展開していく下地が固まりつつある。今年度も遊休農地活動事業をはじめ、いくつかの新たな事業が始まった。また来年度の開始に向けて準備中の事業もある。

連携活動の障害についても、大学と町とで密に連絡を取り合うことで浮き彫りでき、解決策も見つけやすくなっている。定例のボランティアネットワーク協議会も大事な情報交換の場である。

今年度開講された「地域連携の理論と実際」は、大学生の実践的教育の場として地域に出て行く突破口となる可能性を持っている。実践的教育の場を広げることは、最初に掲げた連携の大きな目的である。

固まり始めた連携の下地を確かなものにし、多方面にわたる大学と町との協力関係をさらに結びやすくすることが我々、連携推進委員会の重要課題である。

## 参考文献

---

- 1) 地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割、健康科学  
大学紀要 Vol. 7, 35-49, 2011.

## 写真資料

---

- 1～4 地域連携講座
- 5, 6 地域連携の理論と実践
- 7～10 トレーナークラブ
- 11～16 遊休農地活用事業

## Abstract

The present paper reports the activities in which the committee for promotion of community collaboration of Health Science University (HSU) was involved in 2011. This is the second year since an agreement had been concluded concerning the collaboration between HSU and Fujikawaguchiko town.

The HSU volunteer center was completed, with a full-time staff member and a new office, in April 2011. The new project called “utilization of idle land” has launched and a series of lectures on community collaboration has begun in cooperation with the Fujikawaguchiko town office and non-profitable organizations in the town.

Continued projects were carried out more smoothly with better equipment and more sufficient preparations than before.

Key words: community collaboration

agreement on community collaboration

volunteer center

roles of university in community